

<別紙1>

第三者評価結果報告書

① 第三者評価機関名

ソキウスコンサルティング株式会社

② 施設・事業所情報

名称：厚木こばと保育園	種別：認可保育所	
代表者氏名：田中 みゆき	定員（利用人数）：75名（60名）	
所在地：神奈川県厚木市中町3-11-20 ケイビル4階		
TEL：046-222-5810	ホームページ： https://atsugi.shinkou-kai.jp	
【施設・事業所の概要】		
開設年月日 平成27年4月1日		
経営法人・設置主体（法人名等）：社会福祉法人 新考会		
職員数	常勤職員： 9名 非常勤職員 7名	
専門職員	園長 1名	保育士 7名
	主任保育士 1名	
	副主任保育士 1名	
	保育士 6名	
	調理員（外部委託 2名）	嘱託医（内科医 1名）
	栄養士（外部委託 1名）	（歯科医 1名）
施設・設備 の概要	（居室数）6	（設備等）
	保育室 一時保育室	職員室 給食室 更衣室 相談室 駐車場 駐輪場 エレベーター

③ 理念・基本方針

理念：子どもたちの成長を見守り、足跡を未来につなげる。
～君たちの足跡を残したい～

基本方針：社会の変化と子どもたちの育っていく環境は目まぐるしいほどの変化をしています。日本の国内にとどまらず、世界に広がっていく社会環境の中で適用できることとして育って行く道すじをしっかりと見つめながら、「環、食、知」をバランス良く育てていきます。

④ 施設・事業所の特徴的な取組

- 施設は小田急線「本厚木駅」より徒歩約5分、商業施設が立ち並ぶ市街地のビルの4階に位置し「駅近くのビル内の保育園」という立地特性を生かした保育を行っています。駅近であることの利点を生かした子育て支援事業（休日保育）や最近では本厚木駅との交流を通し構内に子育て支援の掲示をするなど、地域に根差した保育を実践しています。
園前のあつぎ大通りは交通量が多く、交通安全に努めています。近くには厚木中央公園や厚木公園など多くの公園があり、天気の良い日には散歩にでかけています。
- 子どもたちの意見や会話を大切にし、興味関心を持ったことから子どもの主体性を大切にして活動内容を一緒に作り上げています。
- 園外散歩を通して地域のとの交流や、体力の向上に努めています。
- 毎日の様子をクラス毎に写真入りで作成した保育ダイアリーを保護者に向けて掲示しています。
- 全学年で連絡帳アプリを活用し、乳児クラスは毎日、幼児クラスは休み明けに子どもの様子を入力してもらい園での様子も知らせています。

- ・毎月の子どもの育ちを写真とエピソードで伝えるポートフォリオを作成し保護者に渡してコメントを書いて返却してもらっています。年度末には一年分をまとめて保護者に渡しています。
- ・一時保育、休日保育、親子陶芸、LaQ（ラク）講座等、地域の子育て世帯に向けた子育て支援に関しての取り組みを行っています。
- ・栄養士による月一回の食育や看護師による隔月の健康教育を行っています。
- ・はだし保育を取り入れることで、土踏まずの形成促進や足の裏の刺激による体全体の成長を促しています。
- ・カリキュラムの中では、ピアノを取り入れリズム感や音感を培い、5歳児から英語のレッスンをしています。

⑤ 第三者評価の受審状況

評価実施期間	R5年8月1日（契約日） ～ 令和6年3月15日（評価結果確定日）
受審回数（前回の受審時期）	1回（平成29年度）

⑥ 総評

◇特長や今後期待される点
〈特長〉

1. 子ども主体の保育を通して、子ども、保護者、職員が共に育ち楽しさを感じられる園を目指しています

保護者から「子どもの保育の様子を知りたい、園の様子をもっと知りたい」といった要望に、これまでは感染症対策等の観点から実現が難しい状況になっていました。このような環境を受けて、写真で園の様子を伝えることで保護者に保育の楽しい様子を伝えています。一つはクラスごとの様子を毎日玄関ホールに掲示する「保育ダイアリー」で保護者に伝えています。

また個々の子どもの様子を写真とそのエピソードを記載した「ポートフォリオ」を月末に保護者に渡し、保護者からコメントをもらうことでコミュニケーションを図っています。年度末には毎月のポートフォリオ12ヵ月分を渡し、子どもの1年間の成長の姿を伝え保護者と喜びを共感し、常に保護者とともに子どもと向き合えるようにしています。「ポートフォリオ」のエピソードは、子どものどの資質を伸ばそうとしているのかを写真から読み取って記入するもので、職員にとっても成長の機会となっています。

子どもの主体的保育を実践するものとして、PA（プロジェクトアドベンチャー）という教育手法を取り入れ、子どもの成長づくりに取り組んでいます。PAは、日々の保育を通して、子どもの自己肯定感を醸成することや子ども同士の関係づくりを支援するもので、職員にとっても研修を受け自己研鑽することで、子どもの成長を支援し自らの成長につなげています。こうした新しい教育手法を取り入れることにより子ども、保護者、職員が共に育ち楽しさを感じられる保育園を目指しています。

2. ビル内ワンフロアの中で目指す保育の環境を確保し、地域環境条件に応じた取り組みを行っています

法人の基本方針として年齢別に壁を作ることなく相互に交流できる一体的な保育があり、この園では職員室を挟んで乳児と幼児がそれぞれ一つになれる空間がレイアウトされています。感染症防止の状況では大きなアクリル窓が付いた引き戸で仕切られている場合もありますが、子どもでも他クラスの保育の様子を見ることが出来ます。「ビルの中の保育園」を思い浮かべていた見学の保護者が、イメージとの違いに驚くような明るく大きな見通しのよい保育室が確保されています。

駅近くのビル内4階の施設という環境条件を考慮した様々な取り組みが行われてい

ます。ビル街の災害時に備えて、職員のほか、幼児全員分のヘルメットが各クラスにあり、水害や煙を想定した屋上への避難訓練も取り入れています。また不審者侵入というビル街特有のリスクに備えたマニュアルも緊急時対応マニュアルとは別に作られています。

園として市街地での地域交流の持ち方を模索していた中で、本厚木駅での子育て支援の掲示を契機に、園ならではの地域交流を目標にした事業計画に取り組むようになっていきます。

3. 米の栽培や食材に触れることを通して食べる意欲を生み食育に繋げています

園では年間の食育計画に沿って子どもたちの食育を進めています。5歳児は室内の窓ぎわで牛乳パックを利用した米作りの体験をしています。種もみから苗が育ち稲穂が実るまでの生育の過程を観察し、収穫の喜びと食べ物や作る人への感謝の気持ちを持つことができるようにしています。

栄養士による月1回の食育では、切る前の野菜やお米に触れたり、とうもろこしの皮むきをする機会を設けています。食材としても珍しい“ひょうたんカボチャ”を取り寄せ半分に切り中身の様子を観察するなどの工夫もしています。また姉妹園の畑で収穫した野菜を給食で調理してもらい、食べることで食材への関心を深める取り組みをしています。

各クラスから給食とおやつのリクエストメニューを聞き、月交代で特に好きなメニューを食べる日を設けています。栄養士の栄養計算のもと行事食や季節感のある献立を提供し、食でも四季を感じられるようにしています。ご飯をクラスで配膳することで、個々の食べられる量やその日の体調などを担任が把握し、子供の意向を確認し調整しています。栄養士は各クラスを巡回し、給食を食べる様子を見る機会を持つことで食事の提供の仕方や献立の改善に繋がっています。

〈今後期待される点〉

1. 多様な働き方の職員による一体的な保育提供の長期的な取り組みが期待されます

保育の専門職の人材不足は自治体の中でも大きな課題となっています。すでに始まっている経験年数の違いや雇用形態と就労時間が多様な働き方の人材を活用する時代に備えて、園の理念や方針を貫徹しながら質の高い保育を提供することが求められています。

経験や働き方が違って園の職員として保護者、子どもたち、地域に対する振る舞いは一貫している必要があります。そのために、この園で経験を積んだ職員には当たり前と思えることでも、職員の行動様式を丁寧に説明し再確認する必要があります。また多様な働き方の職員を含めた総合的な人事管理と人材育成の仕組みづくりが期待されます。

⑥ 第三者評価結果に対する施設・事業所のコメント

この度2回目の第三者評価の受診となりました。前回から5年経ち園長、主任、職員も入れ替わり法人の理念、保育目標を軸として保育を行ってきました。今回自己評価を行っていく中で、自分たちが取り組んでいることの再確認ができたり課題点がはっきりとしました。自分たちでは気づく事の出来なかった良いところも見つけていただき自信につながりました。ご指摘いただいた改善点については職員全員で共有し、できるところから改善に向け保育の質の向上に努めていきたいと思っております。最後に第三者評価受診にあたりご尽力いただいた皆様、お忙しい中アンケートにご協力頂いた保護者の皆様に感謝申し上げます。ありがとうございました。

⑧ 第三者評価結果

別紙2のとおり